

福井県スポーツ推進計画の概要 (中間取りまとめ案) (計画期間：平成25～34年度)

- これまでの経緯 スポーツ振興法に基づき、福井県スポーツ振興プラン策定【平成10年3月 目標年次：H22】
- 国の動向 スポーツ振興基本計画を策定【H12年9月】 スポーツ基本法を制定【H23年6月】 ⇒スポーツ基本計画（期間10年）を策定【H24年3月】
- 今回の計画

<計画策定の背景>

- 人口の減少、少子高齢化の進行
- 平成30年国民体育大会の開催
- 成年のスポーツ実施率が低い(36.8%：全国45.3%)
- 県民の多くは運動不足を感じている

<目指す姿>

- (1) 運動好きな子どもたちが元気に輝ける福井
- (2) 県民の誰もがスポーツを楽しめる福井
- (3) 国内外で活躍できるトップアスリートが育つ福井

現状と課題

I 子どもの体力・運動能力

- ・体力テストを継続し分析・改善による全国トップクラスの体力
- ・運動する子としない子の二極化傾向が顕著
- ・部活動で中学生が小学生時の競技を続けられない場合がある

【1日1時間以上運動をする子ども】	H20	H22
	小6 1.0% (全国58.2%)	⇒小6 2.5% (全国60.1%)
	中7 5.3% (全国73.7%)	中7 4.7% (全国73.8%)

II 運動・スポーツの習慣化

- ・成人の週1回以上のスポーツ実施率が減少
- ・運動をしない多くの理由は「仕事(家事・育児)に忙しくて時間がない」「機会がない」「年をとったため」であり、特に女性に多い。また、運動する理由の多くは「健康、体力づくり」のためである

【成人の週1回以上の運動実施率】	H18	H24
	42.3%	⇒ 36.8%
		(全国45.3%【H21】)

【総合型地域スポーツクラブ設立数】	H12	H24
	1クラブ	⇒ 24クラブ
		(中学校区に対する割合32.4%)

【県民スポーツ祭の参加者数】	H17	H23
	25,178人	⇒ 29,794人

【スポーツリーダーバンク指導者の活用率】	H21	H24
	2.0%	⇒ 5.8%

III 福井県の競技力

- ・オリンピック選手延36名を輩出
- ・国民体育大会成績は概ね30位台
- ・平成30年福井国体での「開催県としてふさわしい成績」の獲得
- ・国体において、得点力がある競技に偏りがある

【国際大会上位入賞者数】	H19	H23
(3位以上の入賞)	7名	⇒ 27名

- 【上位獲得が望める競技】 ボート、ホッケー、体操、自転車、テニス等
- 【入賞が厳しい競技】 アイスホッケー、スケート、なぎなた、水球等

主な施策

【子どもの体育・スポーツ活動】

1 学校体育の充実

- 新・体育支援アシスタントの派遣制度を創設(小学校での実技の見本演技、実技指導の補助などを支援)
- 新・A1(アクティブワン)運動を実施(小学校で、ラジオ体操や外遊びなどの体を動かす活動を1日に1時間以上実施)
- 新・学校にジュニアトップアスリートを派遣(小・中学校で運動、スポーツ技能の向上に意欲を持って取り組めるようにするため、子どもたちと同世代のジュニアトップアスリートの模範演技を見る機会を設定)

2 運動部活動の充実

- 新・部活動指導力向上会議の設置(国体に向けた強化や体罰等の不適切な指導の排除に向け、指導者の資質向上対策を協議)
- 新・運動部へ外部指導員の配置制度の創設(運動部活動を新設する場合に公認スポーツ指導者や教員資格を持つ指導員を配置)

【1県民1スポーツ】

1 スポーツに親しむ環境づくり

- 拡・一年を通じたスポーツの推進(冬季でもできる体験フェスタの開催や冬場でのスポーツ練習等が可能なスペースの確保)
- ・地域の実情にあった総合型地域スポーツクラブの設立と活動を支援(中学校の運動部活動で小学生時代の競技を継続できないことや、高齢者スポーツの場の確保などの課題を解決)

2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

- 新・遊びコーディネーターの派遣、子育て世代等のスポーツ参加の促進(就学前の子どもたちの遊びを先生に助言する「遊びコーディネーター」の派遣、育児中でも気軽にスポーツに参加できるよう、子どもを預かる保育士などを派遣するスポーツ教室の開催)

新・市町でのスポーツ推進

- (市町での国体に向けたスポーツ推進の取組みと開催競技を普及・強化することを担うスポーツ専門員の配置)

3 ユニバーサルスポーツの推進

- 新・高齢者や障害者のスポーツ参加の促進(老人会などへ、スポーツ・レクリエーションの指導者を派遣し、高齢者に優しいスポーツなどを紹介)
- ・スポーツ活動場所の確保(障害を持つ人が十分にスポーツを行えるよう、特別支援学校等のスポーツ施設を活用)

4 スポーツボランティアの確保と活用

- ・スポーツリーダーバンクの活用(指導者やボランティアの登録を行うリーダーバンクの周知と積極的な活用)

5 スポーツ交流の推進

- 新・全国大会誘致とあわせた県民向け大会の開催(全国大会を誘致した際に県民も参加できる大会を同時に開催して交流を促進)
- 新・スポーツツーリズムの推進(合宿情報、観光スポット、子どもたちのスポーツ交流をセット化するなど本県ならではのメニューを提供し、県外からの合宿の誘致を図る)

【トップアスリートの養成】

1 選手を育成・強化する体制づくり

- 新・重点強化校の指定(強化拠点を構築し、県内外から優秀な選手を強化校に集め、実践練習を強化)
- 新・クラブ・企業チームでの強化(Uターン選手の受け皿づくりのため、クラブチームなどが行う強化練習を支援)
- 拡・優秀コーチの活用(中央競技団体から優秀な指導者を定期的に招いた指導実践や指導者講習会を実施)

2 競技力向上のための環境づくり

- ・スポーツ医科学支援体制の充実(アスリートカルテを活用した健康管理、ケガ防止、治療支援および適切なトレーニングプログラムの提供)
- 新・アスリートに必要な栄養指導の推進(栄養士がジュニア選手、保護者、指導者を対象に食育を指導)

数値目標

●子どもの運動実施時間【1日1時間以上】

【H22】	小学生	62.5%
	中学生	74.7%
		↓
【H30】	小学生	78.0%
	中学生	82.0%

●成人のスポーツ実施率【週1回以上の実施】

【H24】	36.8%
	↓
【H30】	58.0%

●総合型地域スポーツクラブ数

【H24】	24クラブ
	↓
【H30】	35クラブ

●国民体育大会成績【男女総合順位】

【H24】	24位	↓
【H30】	開催県として	ふさわしい成績

●国際大会上位入賞者数(3位以上の入賞)

【H23】	27名	↓
【H30】	40名	